

ミヤケアケハダニに対する殺ダニ剤の防除効果

ミヤケアケハダニは施設カンキツにおいて多発し、落葉や果実への被害をもたらすことがあるものの、各種薬剤への効果はほとんど検証されていない。そのため、令和7年度に施設かんきつ園に発生したミヤケアケハダニについて、各種薬剤の効果について検討した。

■ミヤケアケハダニとその被害



- ◆ ミヤケアケハダニの特徴
 - ✓ 全体的に白っぽい体色
 - ✓ 4つの黒い線が特徴（成虫）

- ◆ 被害葉
 - ✓ 葉脈沿いを加害し、加害痕は黄変し、変形することがある。
 - ✓ 多発すると落葉する

- ◆ 被害果
 - ✓ 加害部は褐変し、コルク化



■薬剤試験（令和7年7月21日実施）

供試虫：施設甘平で発生した個体

試験方法：プリンカップを用いたリーフディスク（直径30mmの穴をあけた紙をかんきつの葉上に置いたもの）を作成し、各リーフディスクのろ紙開口部のかんきつ葉上に雌成虫を5頭ずつ放飼し、4日後に雌成虫を除去した後、産卵数を計数し各種薬剤を散布した（散布後は25℃で保管）。

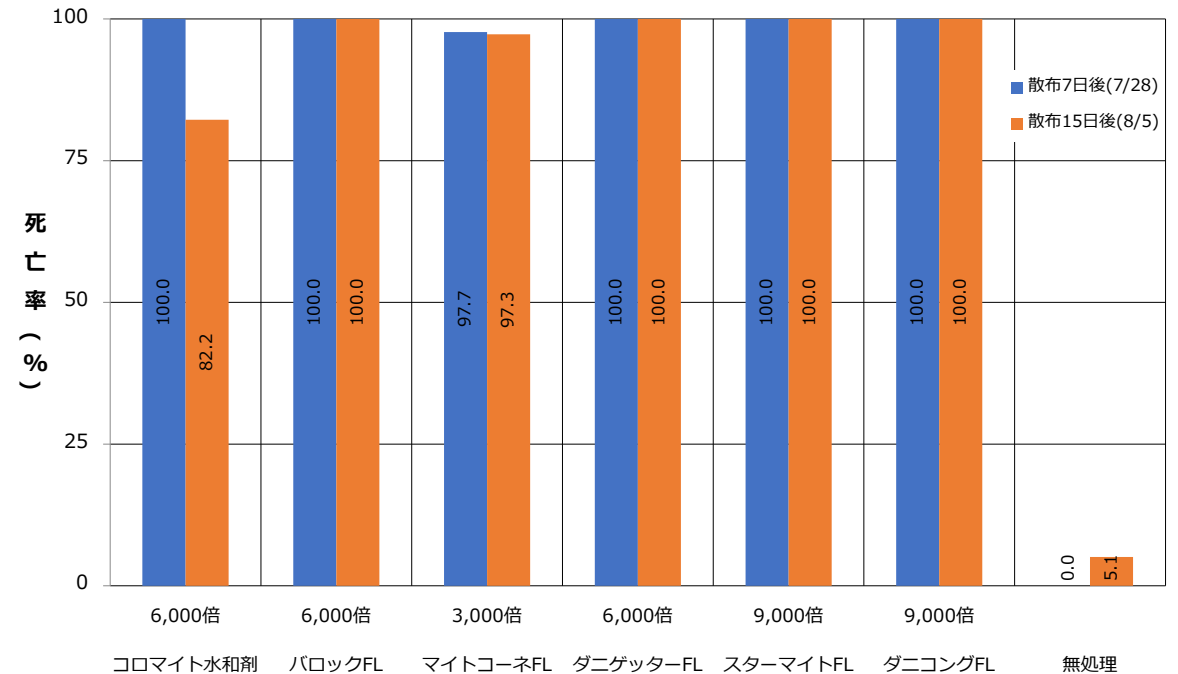


図 ミヤケアケハダニの卵に対する防除効果

- ・ダニゲッターフロアブル、バロックフロアブルの効果が最も高い。
- ・スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは幼虫が多少ふ化するものの、防除効果は高い。
- ・コロマイト水和剤及びマイトコーネフロアブルは生存した幼虫が多少見られ、上記薬剤よりやや効果が劣るものの、比較的效果は高い。

今後の課題

- ・幼虫及び成虫に対する防除効果の確認や基本的な生態の解明が必要と思われる。

- 防除のポイント:施設では、6～7月ごろの被害が多く、多発すると落葉したり、果実被害が出るため、多発する前に防除を行ってください。